

● 世界の主な火山活動

平成 23 年（2011 年）11 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

エトナ（イタリア）（図中 A）

7 月に活発化した活動は 11 月も継続した。南東火口では溶岩流や溶岩噴泉を伴う突発的な噴火が 1 回発生した。

イエロ（スペイン）（図中 B）

10 月に始まった海底噴火は 11 月も継続した。14 日及び 26 日に海面では溶岩片が確認されていたが、27 日に噴出が激しくなり、平均で 0.5m から 2 m の大きさの溶岩片の放出及び浮遊が観測された。地震活動は活発で、最大震度 5（ヨーロッパ震度階による）となる地震も発生した。地滑りの危険のため 80 人以上が避難した。

ニアムラギラ（コンゴ）（図中 C）

6 日に山腹下方から割れ目噴火が始まり、溶岩流が生じた。11 日には噴石丘から 300m の高さまで上がる溶岩噴泉がみられた。

ツングラグア（エクアドル）（図中 D）

27 日に大規模な爆発が発生し、火砕流が流れ下り、降灰及びテフラの降下がみられた。29 日には火口縁上 4 km まで噴煙が上がり、山腹の居住者が自主的に避難した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

